

『マスクと黒板』
濱野 京子 作
講談社 ハ

話すときはマスクをつけて、距離をとる。文化祭も運動会も中止らしい。味気ない学校生活を送るうち、中2の輝は級友たちとあるイベントをやることに…。日本中の学校が経験した「コロナの日々」からのささやかな抵抗の物語。

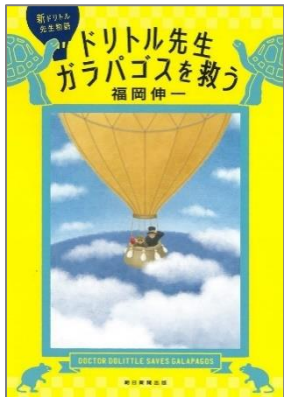
『太陽と月』
はらだ みずき 著
小学館 ハ

夢に偶然などない。小柄な点取り屋・小検山太陽と大型フォワードの大原月人。個性のまったく異なる二人は、プロサッカー選手になるため、熾烈な競争であるセレクションに挑む。



『ドリトル先生ガラパゴスを救う』
福岡 伸一 著
朝日新聞出版 フ

本家「ドリトル先生」シリーズの世界観やキャラクターを土台に紡がれる、生物学者・福岡伸一によるオリジナルストーリー。冒険物語にして、少年スタビーズくんが自然や社会を知っていく成長物語。



『バスを降りたら』
眞島 めいり 著
PHP 研究所 マ

通学のバスの中で見かけるあの人みたいになりたい…。同じ中学の受験に<合格した>奈鶴と、<落ちた>律。バスを降りたふたりは、新たな一步を踏み出し…。名前も知らない男女の視点で描く青春成長物語。



『タブレット・チルドレン』
村上 しいこ 作
さ・え・ら書房 ぶ

1人1台タブレットの時代。あたえられた課題はなんと子育て!? 生徒2人がペアになり、タブレットの中で人工知能の子どもを育てるといふ。心夏と温斗のペアがさざかったのは、超毒舌小学生マミだった…。



『普通のノウル』
イ ヒョン 著
評論社 929.11



母子家庭の17歳の少年ノウル。幸せになってほしいと願っていた母の恋人候補として急浮上したのは、やっと就職が決まったばかりの親友の兄で…。少年が“普通”を揺るがす出来事の中で次の季節へ歩き出すまでの物語。

『明日の国』
パム・ムニョス・ライアン 著
静山社 9371

百の橋がある村サンタマリアでサッカーボールを追う少年マックス。11歳の夏のある夜、見知らぬ男がたずねてきて…。土地の歴史と家族の過去、消えた母親をめぐる謎をからませながら、一人の少年の成長を描いた冒険物語。



『目で見ることばで話をさせて』
アン・クレア・レゾット 作
岩波書店 937



11歳の少女メアリーは、島のだれとでも手話で話し、いきいきと暮らしている。ある日傲慢な科学者に誘拐され、ことばと自由を奪われて…。かつてだれもが手話で話したという実在の島を舞台にした歴史フィクション。

鶴ヶ島市立図書館 YA向けおすすめ本ブックリスト

felice

ふえりーちえ

feliceとは、イタリア語で「幸せ」



202307 Vol.3

YA (ワイイー、ヤングアダルト) = 若いオトナ

YAとは、
子供と大人の間の世代を呼びます。
鶴ヶ島市立図書館では、
12歳から18歳くらいまでのみなさんを
対象にしています。

『不思議なテレポート・マシンの話』

飯田 隆 著
筑摩書房 104頁

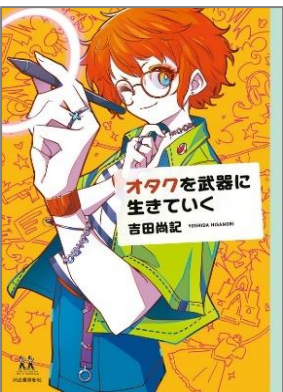
もしもこの世界のあらゆるものが複製可能になったら？僕と発明マニアのおじさんとの、やさしい哲学対話。不思議なテレポート・マシーンとの出会いをきっかけに、哲学の基本的な問題をめぐって丁寧に議論を繰り返す。



『オタクを武器に生きていく』

吉田 尚記 著
河出書房新社 159頁

好きを仕事に活躍できる人の条件は？日本一のオタクアナウンサーが、アニメ業界・動画配信等で活躍する人々から、「好きを生かして成功するための具体的な条件」を引き出す。



『カメラにうつらなかった真実』

エリザベス・パートリッジ 文
ローレン・タマキ絵
松波 佐知子訳
徳間書店 334頁

3人の写真家はなにを撮り、なにを撮らなかったのか？第二次世界大戦下、強制収容所で暮らさなければならなくなったアメリカ西海岸の日系人が直面した真実を、写真資料や挿し絵とともに紹介する。



『セイシル』

セイシル製作チーム 著
KADOKAWA 367.9円

人気の性教育サイト『セイシル』を書籍化。10代が抱える性のモヤモヤに、総勢50名の各分野の専門家が、対話形式やQ&A方式で真剣にわかりやすく答える。



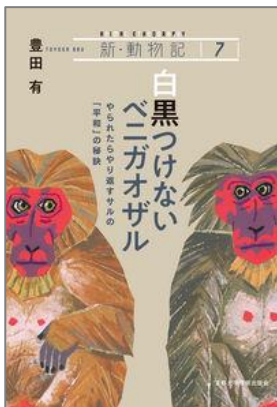
『死んでもいいけど、死んじやだめ』と僕が言い続ける理由
大空 幸星 著
河出書房新社 368頁



『障害者ってだれのこと?』

荒井 裕樹 著
平凡社 369頁

「障害者」とはだれのことか。「障害」とはなにか。わかるようでわからない問題を、いろいろなアプローチでそもそも論から考える。障害者差別についても取り上げ詳しく解説する。



『白黒つけないベニガオザル』

豊田 有著
京都大学学術出版会 489.9円

勝敗のわからないケンカ、協力してメスを囲うオス、ケンカを仲裁する赤ちゃん…。タイの岩山に住むベニガオザルの素顔と、彼らの「平和」の秘訣を追う。

『ななみの海』

朝比奈 あすか 著
双葉社 974頁

児童養護施設で暮らす高校生のななみは、医学部進学を目指している。懸命なアルバイト、最後の文化祭、初めての彼氏。高校生活を色濃く過ごす中、高3の夏にななみが選んだ道とは-



『死んでもいいけど、死んじやだめ』と僕が言い続ける理由

大空 幸星 著
河出書房新社 368頁

苦しいときは、誰かに頼れば出口は必ず見つかる。24時間365日無料チャット相談を立ち上げた現役慶大生が、自身の経験をもとに、心を守るための具体的なヒントを紹介する。

『千に染める古の色』

久保田 香里 著
アリス館 67頁

平安時代の京の都。人々から「かぐや姫」とよばれていた右大臣の娘・千古は、装着(成人の儀式)が近く、外出を禁止されていた。しかし、「かさねの色目」をきっかけに、自分で着物を染めてみたくなり外に出て行ってしまい…。



『カンフー&チキン』

小嶋 陽太郎 作
ポプラ社 107頁

名門私立高校に入るために塾に通う竹人は、塾の帰り道、街にのさばる不良チームに襲われ、財布をとられてしまう。そこへ現れた、怪しい気功術を使う変わり者のクラスメイト・クラゲに助けられ…。



『スネークダンス』

佐藤 まどか 作
小学館 94頁

芸術の町ローマで生まれた主人は、父親が亡くなったことを機に母と日本に帰国する。東京の町をスケッチしていたある日、主人はスプレー缶を持ちダイナミックに落書きをしている風変わりな少女と出会い…。



『図書室のはこぶね』

名取 佐和子 著
実業之日本社 114頁

10年前に貸し出されたままだったケストナーの「飛ぶ教室」が、野亜高図書室に戻ってきた。体育祭を控え校内が沸き立つなか、1冊の本に秘められたドラマが動き出す。この世界が愛おしくなる瑞々しい青春小説。

